

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500053		
法人名	特定非営利活動法人 いこい		
事業所名	グループホーム いこい		
所在地	岐阜県中津川市瀬戸536-2		
自己評価作成日	平成30年1月1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500053-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191500053-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、認知症高齢者の家族が集ってつくりあげたNPO法人が運営しています。ご利用者様に対しては、穏やかに安心して生活を送っていただけるように努めています。認知症の方特有の不安感を少しでも和らげ、にこやかに過ごしていただけるように季節行事や誕生日会、個別外出等を実施しています。また、ボランティアさんに来ていただいたり、近隣の方から農作物の差し入れをいただいたり、地域の方に理解されながら繋がりを大切に暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設7年となり、地域の一員としての存在感が高まっている。利用者が、住み慣れた環境の中で、ゆったりと最期まで、安らぎのある生活が送れるよう支援している。家族は、在宅で揺れ動いた介護の混乱から解放され、ホームへの感謝と満足感、職員への信頼を深めている。今年度の新しい取り組みとして、誕生月の個別外出支援や、家族のサービス担当者会議参加が実現している。また、迷子猫をホームで受け入れた事も、利用者のセラピーにつながっている。管理者は、職員の提案やアイデアを受け入れ、それらを最大限に活かしてモチベーションにつなげながら、働きがいのある職場環境を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは笑顔を育てます」という理念をケアの基本原則として全職員が共有できるよう努力している。理念は玄関や事務所に掲示し、日々目にしながら実践している。どうしたら具体化できるか、職員会議や申し送り・研修の場で各々が考え、実践している。	理念は、誰もが目に付くよう、玄関に掲示をしている。職員は、理念に基づいた支援が出来るか、日々振り返り、実践につなげている。利用者が笑顔でゆったりと、安心して暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として定例会や自治会活動、祭礼等に積極的に参加している。また地域の方がボランティアに来て下さったり、農作物の差し入れ等もしていただいている。	自治会の一員として会議や行事に出席し、ホームの情報を発信している。地域のボランティアが、芸能披露やレクリエーション活動などで、日常的に訪れている。近隣住民とも親しいつき合いが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について学び実践していることを、地域の方との会話の中で話したり、施設の見学をしていただいている。今後も相談を常時受け、地域に貢献できるよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の様子やサービスの実際について報告や話し合いを行っている。毎回、推進委員の皆さんが全員参加され、ご意見を頂いている。余暇活動の充実や感染症の予防策等に活かしている。	会議は、隔月に開催し、利用者も参加している。利用者の暮らしの様子や行事などの写真を提示し、意見を交換している。感染症対策や認知症に伴う機能の低下についても話し合い、サービスの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市の主催するケアマネ部会・グループホーム部会・研修会等で情報や意見交換、助言を頂いて協力関係を築けるよう努めている。また、介護相談員を受け入れている。	市主催のグループホーム部会に参加している。また、研修会の機会も多い。事業所の実情は、運営推進会議の場で伝え、利用者の事故や感染症、入退院なども報告し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は解放し、職員の見守りで対応している。ベッド柵や車椅子なども含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご利用者にはできるだけ自由に過ごしていただくよう、物理的な身体拘束のみならず、心理的な拘束についても注意を怠らない様指導している。	身体拘束をしないケアに取り組み、言葉による心理的拘束についても、常に意識し、ケアを実践している。ベッドには、柵に替わる「スイングアーム介助バー」を備えている。玄関の鍵は、日中は開放し、自由な行動を見守り、利用者に寄り添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて虐待防止等について学び、虐待防止の見守り役として注意深く努めている。会議で虐待のあった事件を報告し、自身の支援の在り方について見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、特に成年後見制度について学ぶ機会を持って、日常的に活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約または規則等改定の際には、ご利用者・ご家族に文書や口頭でお知らせするとともに十分な説明を行ってご理解・納得を頂けるよう努めている。また疑問点等の問い合わせは常時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは、日常的に把握できるよう言葉や表情などに注意している。ご家族からは運営推進会議や面会、電話連絡の際に伺うように努め、運営に反映させている。ご利用者の様子は便りを通してご家族にお伝えしている。	利用者の意見や要望は、介護相談員と協同して把握し、家族からは、面会時や家族アンケートなどで、本音を引き出せるよう努めている。寒さ対策や不穏対応についても、家族から要望があり、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、そこで職員の意見を聴く場を作っている。その他にも専門職者会議を持ち、多角的な視点で考え実践している。また普段の申し送りの中からも職員の意見を聴き反映している。	毎月、意見や提案を話し合う職員会議を行っている。日々の気づきや個別ケアを共有し、ケアの統一を図っている。さらには、職員スキルアップの為に支援、運営全般を話し合い、サービスの向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態や実績、勤務状況などを管理者からも代表者に報告している。勤務・職場環境に関する相談も代表者・管理者が受け付けている。給与の賃金表を作成し、人事考課査定を行い、意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し認知症についての理解を深めている。また勤務年数に応じた研修会に参加することで、職責を理解し、よりよい支援に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修会に参加し、交流作りに努めている。会議や連絡ボード等で情報を提供し、出来る限り参加を促し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安・要望・思いなどを聴く機会を作ろうと、職員一人ひとりが意識してご利用者に接している。その際にご利用者に安心していただけるよう笑顔で接し、大声を出すことのないように指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームとご家族、ご本人とのしっかりとした関係を構築する為、話しやすい環境をつくり、不安・困っていることなどを伺って信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、面接時にご本人やご家族から伺った情報・診断書・利用予約票などを基にアセスメントを十分に行い、ご不安の点を少しでも少なくできるような介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者さんは野菜の皮むきや雑巾縫い、広告折りなど得意なことをそれぞれに持ってみえるため、一緒に行かないながら教えていただいている。行っていただいたことは生活の中で活用している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思い、ご家族の思いをそれぞれに伝えて橋渡しをすることを大切にしている。ご家族には相談・報告をしながら、ともにご本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人など馴染みの人との面会や外出・外泊、美容院等なじみの場所への外出はできる限り支援している。	子どもや孫、親戚、知人などの訪問が多くある。また、馴染みの美容院や自宅周辺、買い物、外食など、ドライブを兼ねて出掛けている。家族と一緒に、彼岸の墓参りに行ったり、正月には、一時帰宅する利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の構成が変化するたびに、新たな関係の構築に努めている。ご利用者が話しやすい環境や雰囲気を作れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から電話相談などがあれば対応している。また移動先の施設に情報を提供し連携が図れるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアを通じて一人ひとりの思いや意向の把握をしようと努めている。把握が困難な場合、その人本位に立って職員会議や申し送りの場で検討している。誕生月には本人の希望を聴き、個別外出している。	日常の場面や会話、動作の中で、利用者の思いを把握している。意思疎通の困難な人は、表情から汲み取り、本人本位としている。職員は、日々、家族と協力しながら、利用者が笑顔で安心して暮らせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの記録、日常会話の内容・ご家族からの情報などによって把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや日誌、個別記録から、一日の過ごし方、心身状態、有する力などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と話す機会を作り、要望や不安に感じていること等を聞いている。ご家族にはケアプランの内容を説明し、ご意見・要望を伺っている。また担当職員には一か月間の状態変化や気づきをまとめてもらいプラン作成時の参考にしていく。	サービス担当者会議に、家族も参加している。担当者を中心にモニタリングを行い、気づきや意見を踏まえて、介護計画を作成している。また、利用者の身体機能を維持し、健康で楽しく暮らせるよう目標を立て、計画に反映させていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアにおいては日誌・申し送りなどで職員間で共有できるよう努めている。またご本人の様子や状態等は個別記録に記入し、毎月振り返ることでご本人に合ったケアができるよう検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況・ニーズに対応して、できる限り臨機応変にサービスを提供できるよう努めていきたい。		

岐阜県 グループホーム いこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営について近所の方のご協力を頂いている。また、地域のボランティアさんによる音楽・体操・ゲーム等のアクティビティも行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族の意向を伺い決定している。定期通院についてはご家族にお願いしたり、職員が同行したり、月1回の往診をお願いしている。訪看とも連携し週1回の訪問と24時間の連絡体制を整えている。	かかりつけ医は、個々に継続している。協力医は、月に1回の訪問診療と、随時の往診がある。通院は、家族が担い、都合に応じて職員が代行している。訪問看護とも連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活の中での気づきや情報を協力医療機関の看護師や訪看に伝えている。必要があれば受診や看護などを実施するよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、職員が付き添って情報提供し、退院時は病院の看護師からの情報を伺ってサマリーなどの情報を受けている。この際、できる限りご家族とともに情報を聞くようになっている。病院相談員とも連絡を取り関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重症化や終末期に向けた方針について話をしている。ターミナルケアについて等、具体的なことは指針に則って、その場になった時に改めて協力医、訪看を含めて十分な話し合いと確認をしたいと考えている。	契約時に、重度化や終末期の方針を家族に説明している。重度化については、訪問看護の24時間連絡体制と協力医による連携を行い、終末期の支援体制も整えている。段階的に、医師と家族、関係者が話し合い、最善の選択ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、消防署の協力を得て、救急法・AED使用法・異物除去法などを学ぶ機会を引き続き設けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難を消防署の指導により実施。引き続き地震・水害対策も含めて定期的な訓練により全職員が避難法を身につけていくことを目指し、地域との協力体制も築いていきたい。備蓄や自家発電装置、貯水槽は設置した。	災害訓練は、火災を中心に行い、初期消火、通報、避難等、夜間も想定して実施している。ホームの非常ベルが鳴った際には、地域住民に依頼に来てもらえるよう運営推進会議で依頼している。また、災害時における備蓄として、4日分の食料と応分の装備を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないように注意して言葉かけなどを行っている。プライバシーに注意しながら排せつ介助や入浴介助などを行っている。会議の中で職員に伝え意識付けを図っている。	排泄介助や入浴介助では、特に羞恥心に配慮をしている。声かけは、常に視線を合わせ、本人の思いを優しく受け止め、否定的な言葉を使わないよう心がけている。入室の際は、許可を得ている。	プライバシーや誇りを損ねない支援について、具体的な指針を今後作成する予定である。その実現に期待をしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中活動で行ないたいこと等を尋ね、希望に沿った過ごし方ができるよう心掛けている。誕生者外出では、ご本人の食べたい物を確認し、お店を選び個別で外出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしについて、普段の関わりの中からニーズを抽出し、その人のペースによる暮らしを実現できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や着替えなど自分で可能な方にはしていただいている。できない方には声掛けや介助し、TPOに合わせた服が着られるように支援している。また毎朝鏡をみて、髪を整えたりして意識付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の一般家庭で普段提供されているメニューを提供できるようにしている。また季節に合わせたメニューを提供している。利用者と職員と一緒に準備し、食事や片付けもしている。五平餅やおはぎ等も楽しみながら作られている。	食事は、家庭的な味付けと、食べやすい形態で提供している。また、旬の食材や郷土食も取り入れている。食事中は、テレビを消して軽音楽を流し、職員も一緒に食べながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個別記録に記入している。また、栄養バランスにも留意しつつ地産地消を念頭に、楽しい食事を提供できるよう努めている。水分は午前午後にお茶の時間を作ったり、入浴後に飲んだり、適時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に声掛けをし、ご本人の力に応じた支援をしている。またご本人に合った歯ブラシを使用していただいている。週2回歯ブラシ・コップなどは消毒をしている。		

岐阜県 グループホーム いこい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ずつ記録し、体調や排せつパターンを把握し、声かけや介助をすることで排泄の自立に向けた支援ができるよう努めている。また夜間はポータブルトイレを使用している。また夜間はポータブルトイレを使用している。また夜間はポータブルトイレを使用している。	個々の排泄パターンに合わせて、声かけとトイレ誘導を行い、生活の区切りにも排泄を促している。その結果、ほとんどの人が、トイレでの排泄が出来ている。夜間は、必要な人には、ポータブルトイレを備え、排泄の自立を支えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応には、原因を理解するよう努め、食事や運動など、個々に応じた対応をしている。また、機能性食品の利用による下剤の使用抑制にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の力や希望に応じて入浴ができるよう心掛け、安全に楽しく入浴できるよう努めている。月曜日から土曜日まで、週3回ずつ入浴している。拒否される方は、時間をおいたり、翌日に変更して対応している。	入浴の回数は、本人の希望を柔軟に受け入れ、気の進まない人は、時間帯や曜日を変更するなどの工夫をしている。その人の習慣やこだわりを受け止め、安全で楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は定めていない。個々にお部屋で過ごしていただき、就寝していただいている。日中の休息も体調に応じたり、その時々状況で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、薬局の説明書を個別記録とともにファイルにして、いつでも確認できるようにしている。服薬管理・介助は薬剤師とも連携を図り、確実な服薬と、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等を一緒に行うことで、一人ひとりの生活や力を生かし日々の役割の中で張り合いを感じられるよう支援している。また嗜好や趣味、特技などをつかみ、取り入れることで、喜びの時間や気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニットの増設により、昨年に比べ、買物や散歩等の日常的な外出頻度は減少した。年間を通しては、お祭りや花見、花火大会、紅葉狩り等、季節を感じられるような外出は企画している。また誕生月には本人の要望を聴き個別で外出している。家族にも協力を得て、美容院やお墓参りにも出掛けている。	近場の神社までを、日常の散歩コースとしている。年間行事では、地域のイベントや行楽地へ出かけ、今年度からは、誕生月の利用者の希望を聴き、個別外出も行っている。また、家族とも協力し、馴染みの場所へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお金の管理をしている。ご希望によって少額の現金をご自分で管理し、商店で買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりご利用者からご家族に電話される際には支援し、安心につなげている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には玄関、リビングなどに花を活けたり、壁にリースや手芸品を飾り、季節感や家庭にいる雰囲気を作り出すよう努めている。エアコンや床暖房、加湿器により住環境を整えている。 また掃除やハンドペーパーを使うなど衛生的な環境になるよう努めている。	リビングは、吹き抜けになっており、広くて明るい。季節の花や鉢植え、雛壇が置かれ、壁には、絵画や手づくり作品を飾っている。大型テレビの前にはゆったりとしたソファを置き、畳コーナーには炬燵を備えた、ゆとりある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下のソファなどお気に入りの場所に座られている。話がしたいと思った方のところへ移動され会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた鏡台や整理タンス、ご家族の写真、ご家族からのプレゼント、テレビ、位牌などを置いてみえる。施設側は特に持ち込まれるものについては制限していない。	居室には、使い慣れたものや好みの物を持ち込んでいる。それらを使いやすく配置し、適度な空間も確保している。記念写真やぬいぐるみ、誕生日の色紙などを飾り、安らげる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自室の前には名札を付けたり、トイレの戸の色を変え他と区別できるようにしている。また廊下にはトイレの場所を指す矢印をつけ、迷わずに行けるよう環境面に配慮している。廊下やトイレ、お風呂場には手すりを付け安全に自立した生活を送れるよう整備している。		